

# さやえんどう

マメ科：中央アジア・中近東

## 栽培暦

月	10			11			12			1			2			3			4			5			6			7			8			9		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主 な 作 業																																				

### ■栽培のポイント

1. 酸性の土に弱いので前もって石灰を施し、完熟堆肥を十分に入れる。
2. 茎葉に光線を十分当てるように、株間を取り、つるの誘引をしっかりと行う。
3. うどんこ病の早期発見、早期防除に努める。

■特性 低温と乾燥を好み、暑さには弱い。生育並びに結莢の適温は15～20℃。生育は粘質地が良い。連作を極端に嫌う。

■品種・種子量 莢用：スナック、すずかぜ。種子量はa 当り 0.5～0.6l。

### ■播種準備

**ほ場選定** やや粘質地の排水の良い、日当たりの良いほ場を選ぶ。

**播種期** 秋播き栽培は、根雪前に芽がでるかでないかの程度の播種期がもっともよい。春播き栽培は土の温度が高まったときに播種する。

**施肥・耕起** 畑のpHは6.0～6.7が良いので、pHを確認して、播種14日前に完熟堆肥、石灰質肥料を全面散布し、根が深根性であることから十分深耕する。えんどうは根粒菌が窒素を固定するので、他の作物のように多くは必要としないがリン酸の効果は大きい。施肥は前作やほ場の肥沃程度により加減するが基肥は70%とし、播種1週間前に施し十分混和しておく。

**うねつくり** ネット利用による支柱立て栽培はうね幅100cmとし、土壌の過湿を嫌うので、排水など良くなるように半高うね(15～20cm)にする。

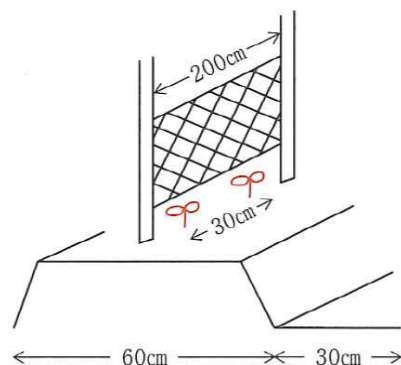
施肥例

(a 当り)

肥料名	基肥	追肥	備考
完熟堆肥	200kg	—kg	成分量
苦土石灰	20	—	窒素 0.8kg
BMようりん	3	—	リン酸 1.0
塩化加里	1	—	加里 1.2
有機入り I B ホーソそさい1号	4	—	
麟硝安加里 S604	—	2	

うねつくり

(ネット支柱栽培)



■播種 うねの中央に株間 30 cmおきに 1 か所 2~3 粒ずつ、3 cmの深さに播く。

■整枝・誘引

間引き 春、本葉 1~2 枚の時に 1 か所 2 本立てにするため、ハサミで株元から切り取る。

支柱立て つるを地面に這わせないように早めに立てる。立て方は、図参照。

誘引 茎葉が通路側に伸び出す前に、つるの伸長と共に 30 cm間隔にポリテープを張り、ネットとポリテープではさむようにする。

■敷きわら・かん水 乾燥防止と地温上昇による根の障害防止のため、株元 10 cm開け地面が隠れる程度に敷きわらす。また、土が乾いたらさらっとかん水する。一度に多量のかん水は根を傷める。

■病虫害防除 主要なものは立枯病、うどんこ病、ハモグリバエ、アブラムシである。立枯病は土壌酸性の矯正、加里肥料の十分な施用が有効策である。

■収穫 莢用は開花後 25 日（莢の長さがマッチ棒の長さ）を目安に収穫。収量は a 当り 80 kg。